

Ban Uranium Weapons! Save Children! Save the Earth!
(劣化ウラン兵器を禁止しよう! 子どもたちを救おう! 地球を救おう!)

ウラン兵器禁止を求める国際行動デー ヒロシマ集会

笑いで撃つ! 戦争に傾斜する日本 マッド・アマノさんを迎えて

(仮題)

11月7日(日)午後4時~6時半

広島平和記念資料館地下会議室1 (資料代:500円)

共催: NO DU ヒロシマ・プロジェクト
核兵器廃絶をめざすヒロシマの会
(財)広島平和文化センター

(連絡先: 090-9064-4705 / 森瀧)

ICBUW (ウラン兵器禁止を求める国際連合) は、11月6日を「ウラン兵器禁止を求める国際行動デー」として設定し、参加を呼びかけています。(これは、国連総会により、11月6日が「戦争と武力紛争における環境破壊を防止する国際デー」とされていることを踏まえたものです。)

すでに色々な取り組みが世界各地で計画されていますが、広島でも11月7日に、政治パロディストとして広く活躍中のマッド・アマノ氏を迎えて、上記の集会を開催することとなりました。

今年6月、日本の「原子力文化振興財団」は、「劣化ウラン弾は安全である」と主張する『劣化ウラン弾による環境影響』と題したパンフレットをマスコミ向けに発行し、あからさまな情報操作に乗り出しています。(パンフレット全文は、「原子力文化振興財団」ホームページ参照) 今回の集会では、今、日本で起こりつつある、こうした「戦争への傾斜・支持」の現実に焦点をあてつつ、「ヒバクシャをこれ以上増やさない」というヒロシマの責任を今、私たちがどう果たしてゆくか取るべき行動について、一緒に考えたいと思います。マッド・アマノさんからは、「ムーア・プロジェクト(マイケル・ムーア監督に広島・長崎原爆投下記録映画を作ってもらおう署名運動)」についての呼びかけもされます。ぜひご参加ください。

マッド・アマノ氏は、世の中の不条理を「怒りと嘲笑」で批判するパロディ・アーティストの日本における第一人者。1939年東京生まれ。5歳から6歳にかけて米軍の東京爆撃を体験。米戦闘機の機銃掃射や大型爆撃機B29の東京大空襲を体験。自宅の床下に父親が掘った防空壕に避難。妻の父親はニューギニアで戦死。

東京芸大美術学部工芸科図案計画卒。第24回文芸春秋漫画賞受賞(1978)、同年、ロサンゼルスに家族とともに移住。写真週刊誌「FOCUS」の創刊(1981)から休刊直前までの約20年にわたり、「狂告の時代」と題してパロディを連載(1981)。薬害エイズ訴訟支援のため患者、中村敦夫氏らとともに厚生省前でアピール。

最近の著書では、小泉首相をパロディで批判する本「リコール! 小泉鈍一郎」、およびブッシュ大統領を茶化す本「President Boosh」が話題になっている。他に、「パロディって何なのさ」、「パロディ毒本」、「狂告の時代」、「天下り新聞」、「パロディ主義」、「マッド・アマノの日本再生33の大提言」、「新しい歴史狂科書」など。「ムーア・プロジェクト」実行委員会代表。東京で「劣化ウラン廃絶キャンペーン」にも参加。

www.parody-times.com

ウラン兵器禁止を求める国際連合(ICBUW)国際キャンペーンに賛同し賛同金を!

郵便振替 口座名 「ICBUW国際キャンペーン」 口座番号 <01310-0-83069>